

IoB
Fundamental
Technologies

ムーンショット型研究開発事業目標・金井プロジェクト



ニユーロテックのある未来社会の姿を人文・社会科学から検討する “Internet of Brains”-Society

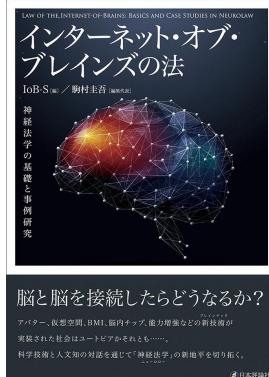
慶應義塾大学 法学部 教授 駒村圭吾

東京大学大学院 情報学環 助教 小久保智淳

“Internet of Brains”-Society は、法学者、倫理学者、哲学者、弁護士を中心に構成されたチームです。私たちは「Internet of Brains」が実現した社会が到来したとき、IoBと個人がどのような関係を取り結ぶことが望ましいのかを検討しています。

具体的には、私たちが大切にしてきた価値、権利、自由を守りつつ、技術がもたらす福利を確保するにはどうすれば良いのか。在るべき社会の姿から逆算し、法的・倫理的にどのような対応や政策、制度が必要になるのかを検討しています。

そのために「神経法学」という新しい法分野を中心に検討を行い、国内外で研究活動を展開すると共に、SF的な想像力の助けを借りた検討、次世代を担う若者と対話を重ねてきました。



インターネット・オブ・ブレインズの法

IoB-Sでは、金井プロジェクトに参画する自然科学发展者・技術者を中心に、神経科学、認知科学、精神医学の領域で研究を自然科学发展者や医師との対話を重ねてきました。具体的には、研究・開発が進む神経科学・技術の現在地とその展望を共有してもらうことで、そこにはどのようなリスク・ベネフィットが潜在しているのかを、時には大胆な未来予測をも含めながら法的・倫理学的に検討しました。そこでは、インターネット・オブ・ブレインズという構想を達成・実現していく上で、私たちの社会において重視されてきた価値、自由、権利を守りつつ、新しい技術の研究開発を加速させ、それらがもたらす福利を最大限に享受するためには、どのような制度や仕組みが必要になるかも検討しています。その成果は、「法学セミナー」という著名な法学雑誌に、2022年~2023年度の2年間にわたり連載されました。その後、内容のアップデートを重ねて、2025年には『インターネット・オブ・ブレインズの法』という一冊の書籍として刊行しました。

このほか課題推進者である駒村圭吾が企画し、神経科学技術を中心とする諸技術の可能性を議論した「人類の可能性を開拓する総合知の未来」や、ELSIのあり方を問う「文・理を超えてこれからの課題にどう向きあうか」と題する座談会を実施し、経済界にも多くの読者がいる『三田評論』に掲載されました。また、ニユーロテクノロジーを含む先端的な諸技術と「自由」との関わりを論じた書籍『Liberty2.0』も刊行しています。

こうした取り組みを通じて、まだ日本では馴染みのない新領域である「神経法学(neurolaw)」に取り組む重要性と意義を研究者コミュニティに発信すると同時に、そこにおける先駆的な業績を多数残しました。

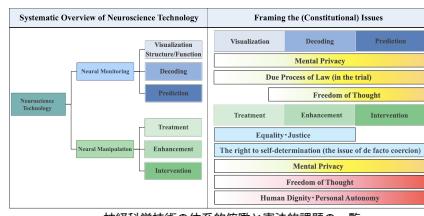
また、IoB-Sのメンバーが新聞の取材を受けたり、web記事を執筆することを通じて、研究者コミュニティに限られない多様なステークホルダーにも情報発信を行いました。



国際的な舞台での研究・意見の発信

国際神経倫理学会 (International Neuroethics Society) や国際公法学会 (ICON-S) といった国際学会や、諸外国で開催されるカンファレンス、イベント、共同の研究会において研究成果を報告することで、国際的な舞台でも積極的な研究成果・意見発信を行うと共に、グローバルに進む議論の中でも、一定の存在感を發揮してきました。

また、UNESCO、WHO、国連人権理事会や、OECD、IEEEで進む勧告文書やガイドラインの策定にメンバーが参加し、国際的なルール形成の場においても積極的な意見の発信を行なっています。今後はこうした活動をより強化していく予定です。



神経科学技術の体系的俯瞰と憲法的課題の一覧
(小久保「神経法学の体系」2024より抜粋・一部改変)

社会との関わりの中で

IoB-Sはアカデミックな活動だけでなく社会との関わりを大切にしながら、実効性のあるELSI議論を目指してきました。

メンバーが攻殻機動隊公式グローバルサイトに連載されたエッセイを執筆し、世田谷文学館で開催されたイベントに登壇する等、SF的想像力や、SFの世界に興味がある一般の方々の期待と不安の双方に向き合ってきました。また、CIC Tokyoで開催されたイベントに登壇し、企業や実務家との交流・対話を行いました。



さらには、慶應義塾大学博士課程リーディングプログラムのサマーキャンプにおいて企画を実施したり、慶應義塾高校で次世代を担う若者を相手に講演会を行いました。そこでは、ニユーロテクノロジーが普及した次世代を担う人材との対話を通じ、情報の提供や問題意識の共有を行なうとともに、ELSIや科学研究を担う人材の育成に努めています。

今後も、本の中だけに閉じたELSI研究ではなく、社会との関わりの中で役割を発揮できるELSI研究を目指していきます。

今後の展望

現在、神経科学技術の社会実装が急速に進展していくことを受けて、様々な国際機関において神経科学技術の実装に照準したルールを形成する動きが加速しています。こうした動きに日本から参画し、ルールづくりにIoB-Sの観点・意見を反映していくことを目指して、積極的な国際発信を行なっています。また、大きな可能性を秘めた神経科学技術を社会が適切に受け止め、リスクとベネフィットのバランスを実現できるよう、今後も研究や多様なステークホルダーとの対話、情報提供も積極的に行っていきます。



駒村圭吾 (こまむら けいご)

慶應義塾大学 法学部 教授

駒村圭吾 (こまむら けいご)：1960年東京生まれ。慶應義塾大学法学部卒業。白鶴大学教授、慶應義塾大学法学部・同大学法務研究科助教授を経て、現在同大学法学部教授。法学博士。専攻は憲法学。ハーバード大学ライシマー研究所・憲法改正研究プロジェクト諮問委員会委員。著書に『憲法訴訟の現代的転回』(日本評論社)、『ジャーナリズムの法理』(嵯峨野書院)、『権力分立の諸相』(南窓社)など。

小久保智淳 (こくぼ まさとし) 東京大学大学院情報学環 助教
大島義則 (おおしま よしのり) 弁護士・専修大学法務研究科 教授
堤林剣 (つつみばやしけん) 慶應義塾大学法学部教授・同法学院長
横大道聰 (よこだいどう さとし) 慶應義塾大学大学院法務研究科 教授
齊藤邦史 (さいとうくにふみ) 慶應義塾大学総合政策学部准教授
松尾剛行 (まつお たかゆき) 弁護士
数藤雅彦 (すどう まさひこ) 弁護士
成原慧 (なりはら さとし) 九州大学法学院 基礎法學部門 准教授
福士珠美 (ふくし たまみ) 東京通信大学人間福祉学部 教授
西村友海 (にしむらともみ) 九州大学大学院法学院 准教授

